

冬場の安全運転ポイント集

損保ジャパン資料より

冬道は、路面の凍結・積雪または降雪による視野の制限など、平常時に比べいわゆる「冬型事故」が起きることが多くなっています。

1 減速ははやめに

雪道では特に「止まること」が難しいもの。赤信号で止まるときなども早め早めに減速しないとスリップしてしまうことや、後ろの車がスリップして追突される危険もあります。ゆとりを持って、とにかくスピードを落とすことを心がけましょう。

2 「急」のつく運転は厳禁！

凍結路・積雪路では、通常の運転と違いタイヤのグリップ力が格段に落ちています。急ハンドルはスピン・急ブレーキはスリップ・急加速はホイールスピンの原因となります。通常の走行でも同様ですが、冬道では特に「急」のつく運転は厳禁です。

3 道路状況に注意を！

冬道では、雪や氷がなくても、日陰や橋の上が氷結している場合などがよくあります。こうした場合でもあわてないように常に道路状況に気を配ることが必要です。

4 チェーン装着は早めに

5 上り坂は高めのギアで

6 下り坂は低めのギアで

7 凍結路面（アイスバーン）上では操作しない

凍結路面ではタイヤのグリップ力がほとんど失われるため、原則的にはなにも操作をせず、わずかに残ったグリップ力を殺さないように通り過ぎるのが安全です。交差点・急カーブの手前・トンネル出口・橋の上・日陰などにアイスバーンはできやすいため、道路状況を観察しながらの慎重な運転が重要です。

8 新雪路の注意点

9 ワダチを上手に使って走りましょう

雪に隠れて思わぬ凸凹があったりするケースがあります。このような事態を避けるためにも新雪の道は避け、ワダチを利用して走る方法が無難です。ただし、ワダチは多くの車の走行で、凍結している場合があるためスピードには注意が必要です。さらに、ワダチから脱出し右左折するときにもハンドルを取られないように慎重に運転しましょう。

10 雪の中で駐車するときの注意点

- 雪の壁にバックで突っ込まない・・・排気管（マフラー）が雪で詰まることがあります。
- サイドブレーキを引いておくと凍結することがあります。
- 凍結防止のためワイパーブレードは立てておきましょう。
- 屋根から雪やつららが落ちてくることがありますので軒下等は避けましょう。
- ドアのカギ穴が凍ることがありますので、ガムテープなどを貼っておきましょう。

冬の交通安全運動とこの時期の運転で特に気をつけたいこと

エアフォルクGPホームページより抜粋

この時期に交通安全運動が行われるのは、**暗い時間帯が一年間で最も長い時期**であることと、クリスマスや年末年始をひかえ経済活動が活発化し、仕事でもプライベートでも何かと慌ただしくどこも混みあったりと、**焦りや急ぎの心理が働きやすく**交通事故が多発することが予測されるからです。

今年はさらに多くのモノやサービスが値上がりした影響で諸経費もかさんだことなどから各企業にはプレッシャーがかかり、商戦ではいつも以上に力が入ると思われ、**余裕のない仕事に平常心を失う**うっかりしてしまう人もいるかもしれません。

このような繁忙期の運転は**『自分自身に潜む危険』を予測**し、**焦りや急ぎの心理にとらわれないように**自分に言い聞かせたり、いかにそうならない行動をとれるかがとても大事なことになります。

この時期の交通事故防止においてどの県でも重点項目に挙げていて取り締まりにも力を入れているのが**『飲酒運転』**です。

実際にアルコールが分解されて体外に排出されるかどうかは飲んだアルコール量と経過時間によるのです。個人差はありますが、**アルコール20gが抜けるのに約4時間**かかると言われています。



- ・ビール 中ジョッキ1杯(500ml)
- ・ワイン グラス2杯(200ml)
- ・酎ハイ7度 1杯(350ml)
- ・焼酎25度 コップ半分(100ml)
- ・日本酒 1合(180ml)
- ・ウイスキー40度 ダブル1杯(60ml)



3杯も4杯も飲んでしまうと**12時間**以上経過してもまだ酒気が残っている